



# ちよビッチサキユバす!

ビッチが突如膨乳する怪現象。  
清楚ビッチが淫乱とおっぱいを辺り一面に  
まき散らしながらあへ狂う。

「ねえ、知ってる？」

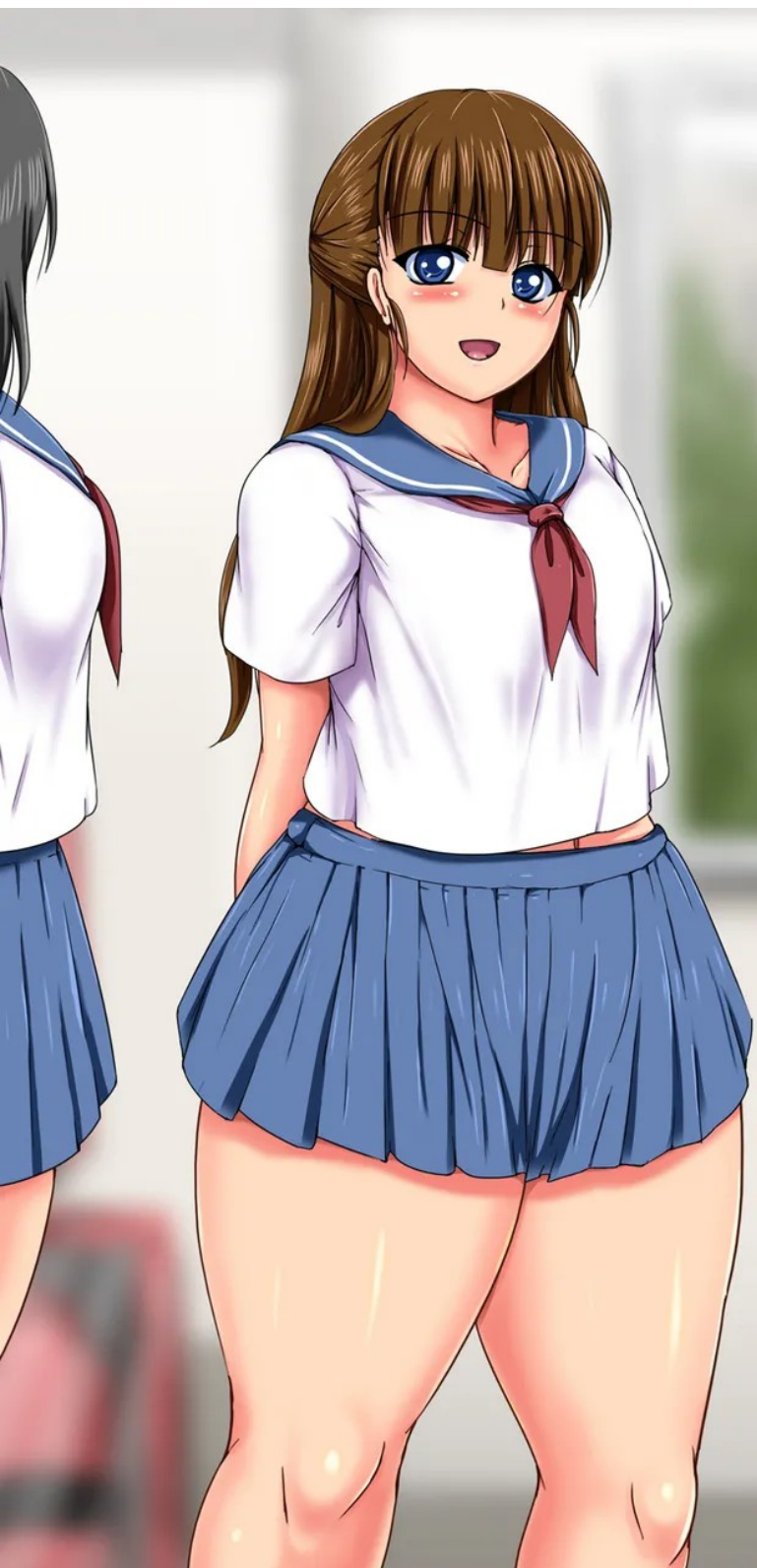
最近、いきなり胸が大きくなる怪現象が起こってるって。」

「え〜〜。何それ？」

「いわゆる都市伝説みたいなの？」

「友達の友達が実際なったって。」

「もうありえないくらい大きくなったとか。」



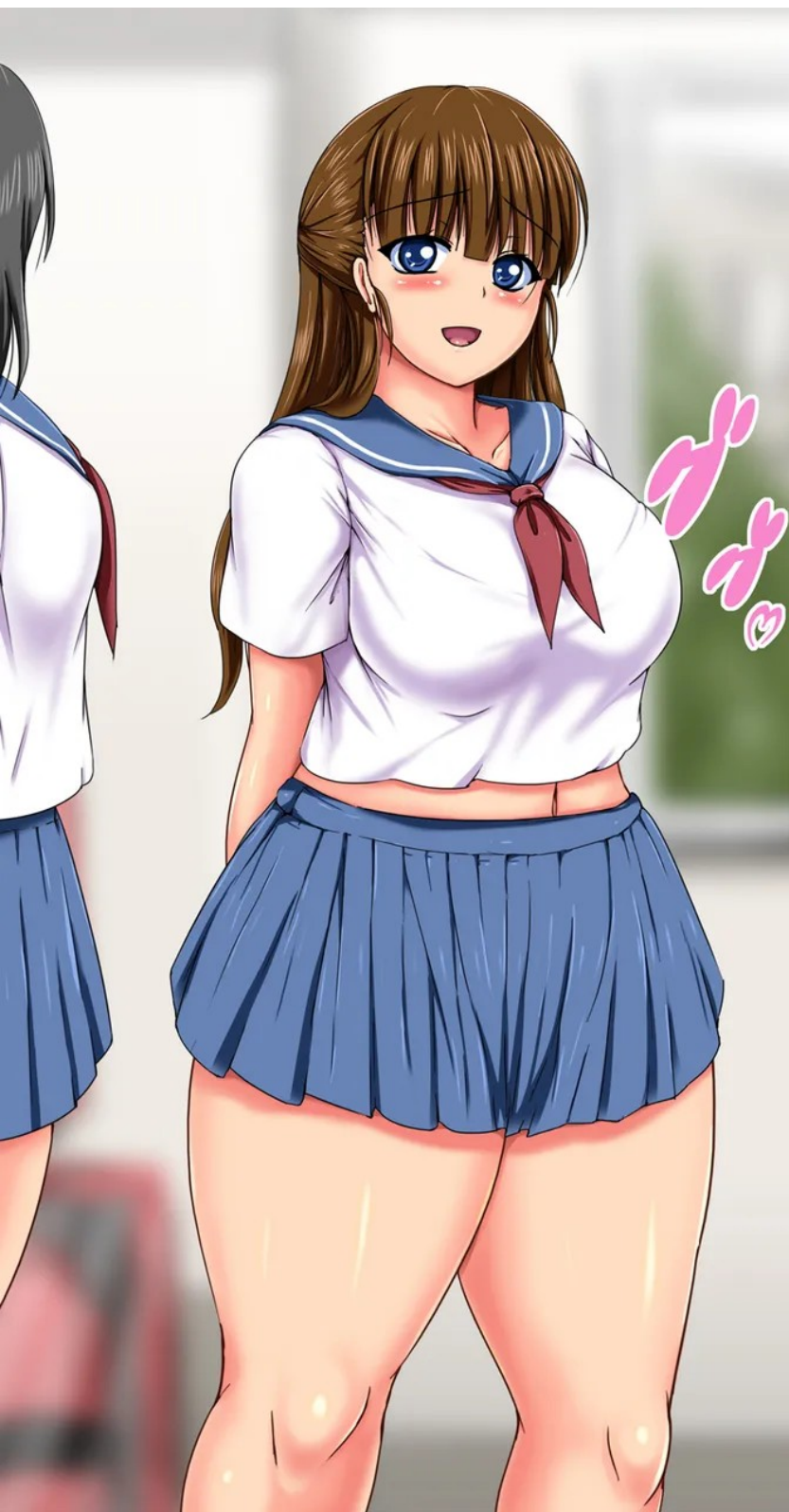
「友達の友達ってと」ですすでに怪しいんだけど。」

「いやそれがそれっぽい画像があるんだよねえ。  
加工でどうとでもなるっちゃんなるけど。」

ちなみに怪現象にあう子には共通点があるらしい。」

「共通点？」

(…あれ？　なんか急に制服が苦しく…。)





「その共通点とは、なんとアンタみたいなビッチ……。」

「……………」

「ちよつ…待つ…！」

何これ！何これっ！

ホ、ホントに…んんぎっ！」



「うおお。瑞樹のおっぱいはマジにやばい…」

そのデカさはやばいって…」

…「これはアップするしかないよね！」



「…はあはあ…。  
ほ、ほんとにこれ私の胸？  
巨乳とか爆乳とかのレベルじゃ  
ないんだけど…！」

「というか、お尻まで大きくなってるとし。  
一体、何なのよ、これはあ。」



(あ。それよりもまず千咲の奴だ。  
本気でアップしかねない……って。  
あれ？何か気絶してる？)

膨張おっぱいでぶっ飛ばしたっばい。  
悪いけどー安心。というか、自業自得！)

「お、おい。あれってB組の宮川さんだよな？  
宮川瑞樹。……どーなってんだ、あれ……？」

周りが騒めき始める。

観衆の視線は全て瑞樹に注がれている。  
非常識過ぎる瑞樹の肉体のせいで、露出変態感より  
混乱の方が大きい。



(あああつ。凄い見られてるぅ♪  
それに分かる。こんなおっぱいでもエッチな目で  
見てる人がいるのが分かるぅ♪

やばい。いつも以上に性欲が抑えられないっ！

(欲しい！欲しい！いっぱい欲しいっ！

あああつ。こ、堪える！私い！

いくらビッチな私でもこんな大観衆の公共の場で  
なんてえ……あああつ！やばいっ！  
それってなんて興奮するシチュエーション♪





(……あれ？  
今私なんかした……？)

(それにお尻が元  
戻ったような気が……)



観衆の中から数人の男子生徒が勢いよく飛び出て  
躊躇なく瑞樹に群がる。

（ちよっ……正気なの？）

ホントにこんな場所で始めるなんて……。

……でも、まあ、いいか♪

この体じゃ不自由過ぎて抵抗できないし。  
端から見れば私被害者だし。

とっちらかして、このまま快感享受♪



「…っふひよおおおっ？  
あひいっ！おほおおおっ！」

「ちよっ…ほおおおっほひいっ！  
あひゃああああ—っ！」

(な、何これっ！)

お、おっぱいの感度がヤバいっ！  
しかも超デカいからあ感じまくりい！  
ああっ！これえヤバい！ヤバあい！  
超デカいヤバ過ぎるっ！

チゅるっ♡



(もおダメエエ！おっぱいイクツツ！  
こんなのこらえるなんて無理いっ！  
イクイクイクツ！  
イツクウウー……ツツ！)

「ああああっっ！ほおおおおっっ♪

このデカパイ当たり前に母乳出るうううっ！」

（母乳出すの気持ちいいうううっっ！  
感じまくって絶頂した先の噴乳なのに  
それがさらに気持ちいいとかなにい？

このおっぱいやばいっっ！ヤバ過ぎるうう！  
超絶ドデカおっぱい気持ち良過ぎるうう！

大きさとか気にしてなかったけどお  
もう貧乳になんて戻れない。  
あああっ！超乳最高おおっっ！）





「あはあっ♪

完全やる気スイッチ入ったあ〜。

もお我慢無理！

超乳モードな私を好きにしていいるから

一人二桁は出しなさいよおっ！」

「お前たち何をしている！」

それにその廊下を塞いでいる

巨大なものは何だ！

とつとと片っける！」



「……………」

「私の超乳に興味ないヤツは引っ込んでてよね！  
邪しく魔！とつととと失せなさい！」

(ちよっ……!! し、萎んだ? めっっちゃ萎んだ!  
せつかくの快感の塊のおっぱいが萎んだんですけどお!)

(今も私何かしたよね?  
……お尻が元に戻ったときも何かした。  
ってことは、豊満さを代償に私何かしてる?)





「んっ？  
……んんんっっ！」

(「こいつ何でいきなり私に発情してんのよ!」

…ん? あっ! 今繋がったかもっ!

もしかして私がしてるのって相手を魅了とか?

最初に来た子たちは元々私に魅かれたから低コストで。  
こいつはそうじゃなかったから高コスト?)

(もしそうならやりたい放題じゃん!  
でも、これ以上おっぱいを萎ませたくないから気をつけないとね。  
どうにかしてまた膨らまないかなあ?)

色々やっつてればいずれ分かるか。

とりまやるぞお♪ 校内乱交やっちゃうもんね〜♪)

「ああああんっ♪」

(ぜ、全員！大きい……！)

揃いも揃ってデカチンとかヤバあっ♪

亀頭も竿も超パンパン！射精直前みたい。

全力チンポお最高おっ♪)

「ああああああんっっ！！」

お、奥まで届くうー！ああああああっっ！！

デカチンいいっっ！！いいのおっ！！

ああああああんっっ！！」





「やんちゃ」

もお出ちやったのぉ？

さすがに早過ぎい。

ペナルティとして抜かずに頑張り

なさいよぉー」

ハッ

ピュ

♡



(ホントにやり続けてるう♪  
しかも精液ドボドボ出てくるし♪  
皆凄おろろい♪)

(…ていうか揃いも揃って、っていうのが出来過ぎ。  
もしかして、この凄チンモード、魅了のおかげ？  
だったらヤバいんだけど！  
魅了、性能良過ぎじゃない！  
これで色々萎まなきや使いまくれるのにいい！)

「ま、松井先生まで何をなさってるんですかあ。  
今すぐ止めて衣服を正して下さい！」



(ど、どう見ても皆の様子がおかしいけど何が  
起こってるのお?)  
あの大きい肌色の塊。お、おっぱいだよね。  
あんな大きさ実際にあるものなの?  
私も結構大きいけど、その何倍もおおっって  
嘘、あの子の胸さらに大ききうっ……)



(来た来た来たあ~~~~♪  
おっぱい増量ついに来たあ~~~~♪  
エッチか、精液かは分かんないけど  
どっちにしる中出しエッチしてれば  
問題無いでしょ。)

(んで、再増量できると分かれば  
やることは1つ!  
私のエロで興奮してきた奴を魅了  
で追加~~~~♪)

「あああんっ! さあ、穴という穴に  
たっぷりどっぴり注ぎ込んで〜♪」

「ちよっ…、あなたたち！」

近づいてはダメ！ダメだつてえ！」

（見てる男子がどんどん引き込まれてる？

ならとにかくおっぱいの塊な彼女から皆を  
遠ざけないと！）

女教師はわたわたと人を追い払おうとするが  
野次馬は絶えず流れ込んでくる。





「えっ?…あああっ!!  
ぢよっ…そ「お乳首い…!!」

「チンポ突っ込む穴じゃないっつてえ!  
おおおおおっ!ほおおおっ!!」

「あひよおおおおほおおおおおっっっっ！  
ぎもぢいいいいいいのびよすぎっっっっ！  
ぢよおおっっっっ、動いひやほおりやめほお！」

(ちよ、超性感帯の塊なおっぱいをマジに犯すとか  
ありえないんですけどおっっ！  
乳首にデカチンポがズボズボ行き来してるう！  
やばいやばいやばいいいっ！  
これ死ぬうっっ！か、快感強すぎて死ぬってえ！  
イ、イクの止まんなあひいっ！)

(「、腰の動き止まったあ……?  
な、何でっ?  
他の男子生徒が邪魔してる?)

(もしかして穴の取り合い?  
……今の私の乳首サイズだとデカチン二本  
イケたりとかしないよね……?  
自分のエロポテだと大有り!

今二本挿しとかしたら絶頂で死ねる!  
どっどっにかしないとぉ!  
おっぱい絶頂が止まってる今のうちにい!



「ひ、一穴一人までええーっ！  
余っへてえ我慢できにやいチンポどもはあ  
その辺にいるう女でも犯ひといへえっつ！」

「し、搾り尽くし次第に順番にひへえあげりゆう  
からあ！適当に犯ひいて待っにやさあいっ！」

「や、やめなさいーっ！  
これは犯罪ですよっ！あなたたち！」

(や、やっぱり何言ってもダメ。  
この子たち正気じゃない！  
い、一体どうしたら……！)

って、何このオチンチン……！  
最近の若い子ってこんなに大きいの？  
……彼のよりずっと大きい。桁違いに大きい！)



「ダメ！正気を取り戻してえ！  
そ、そんな大きいの入らないかあつりやああつ？」

「あああああ——っ！  
ひいあああぶっほおっ！  
う、嘘おっ！ふ、普通に入っへえあああつ！」



「ふうんんん——っっっ！  
んんんっ！ ふんんっ——っっ！」

「二、声が出ちやいそお。二、堪えろ、私いっく！

無理矢理で感じてるなんて、校内でしかも生徒の  
前で見せるわけにはいかないのよおっ！

ダ、ダメ！ダメダメダメエー！

お、大き過ぎてえ、ありえない所まで届いて全部が  
擦れるっ！馬並巨チン凄いいっくっくっ！



「んんひいんんぎららら〜」

ビクッ♡  
ビクッ♡

（ひ、人が頑張って耐えてるのにい馬鹿みたいに  
射精しないでええええっ！  
で、出過ぎいー！出過ぎー！出過ぎいっつー！）

射精でチンポが硬くうさらにデカチンになってえ！  
これえ無理無理無理無理いっ！もおイクッツ！  
イッグウウー……ッ！）





「んんんっほおっ…  
おんんっほおほおっ！」

(敏感おっぱいに連続中出しとかあ  
イギまぐるうっうっ——っ！)

そ、それにお尻も大きくにやった途端  
感度が上がつへえケツ穴ヤバひいっ！  
イクイクイクイクイクツツ！)


んんんっほおっ  
おんんっほおほおっ



（ぶ、踏ん張つへえないと意識飛びひよおつ！  
5穴責めひやれてからあずっひよいつへるうっ！

それにひへえもこの巨チン軍団、抜かずに何発  
だへえるのよお。もおおかげでえイグのお全然  
止まらにやいいいぐぐぐっ！

（ああああつ！こ、この感じはあ……！  
まひやチンポ膨りやんできたああつ！  
量が衰えにやい大量中出し……！  
ああああつ！硬チンポでイクツッ！  
突き刺さる精液でもイックウウツツ！）



一発目から終わりまで変わらず大量射精  
していたはずの二人が先ほどの射精を期に  
一気に萎え、倒れ込む。

「……」

うぼおふうんぐう？」

快感源を2つも失い物足りなさに  
瑞樹は巨大な尻を揺らす。

(デカチン絶倫モードって、もしかして  
短時間しかもたない?)

(体力と精力を犠牲にして限界超えの勃起と  
射精を強制維持!  
さらに搾りカスになるまで自分でやらせる、  
とか。この能力、やばあ……♪

電池切れた二人、ビクビク痙攣しっぱだし。  
搾り尽くした後は当分使えなさそうかなあ。  
これは、チンポが足りなくなったらどんどん  
新しく魅了していかないとダメね。)

(あっ……精液が体を奥に浸み込む  
感じ……! ああああっ。  
これくるう。膨張くるうっ!  
くるくるくるくるっ!)





(ちよっ…デ、デカくなり過ぎいっ！  
いきなりこんなサイズになったら感度が  
ヤバイことい…！)

ああああっ！  
ダメダメダメ！来る来るぐるうっ！



「イクイクイグイグー……ッッ！」

ほおほおほおほおああああひゃあああッッ！

イクイクイクイクまだあッグウッッ！

イグッッ！イグッッ！イッグウウウッッ！

ひいほおほおほお「おおおッほおおッ……」

あああああッイッグウウッッ！

ホ、ホントひいイグのお止まんないひいほお！

あああああッ！イックウウー……！

おっぱい気持ちいいのどまんないいつ！

おっぱい死ぬうっ！じぬう~~~~！

あッ！ほおッ！ひいひいいつ……！

ハッ♡


ハッ♡

ハッ♡

「ぼおにゆうううううううっ！  
づぐるのお止まつへえほおっ！  
ほおおおおおひいいいいいっ！」

連続絶頂で随時生産される母乳。  
大量に漏れ出しているがそれでも放出量  
が充分ではなく、乳輪と乳首がパンパンに  
膨らんでいく。

内包されている母乳が乳首に入っている  
ペニスを押し出そうとするが、男たちは  
意地でも穴に取り付き離れない。



幾度となく注がれる精液。

噴乳圧に耐え、ひたすらおっぱいに中出ししていた二人が力尽き始める。

限界を超えてもなお強制される性交。  
弓ぞりになったまま呪われたように腰を  
突き出し穴に精液を注ぎ続ける。

丸々と膨らんだ乳首は男が崩れ落ちペニス栓が  
抜けるのを今か今かと待ち震えている。

待ち構えているのは次に瑞樹の穴を狙う男も同じ。  
一穴一人の命に従い順番が空くのを他の女の穴を  
犯しながら窺っている。



「もお、やめえあああああつっ！

お願いだからやめえへえ！

ま、またイっちゃうからダメえええつ！

あああああああああああああ——っ！

ダメダメエツッ！ あああああああつ！

おほおほおほおほおっ！」

「イッグウウー——ッ！」



（あああああ……）

私また校内でイっちゃってるう。

デカチン。ポ生徒にイカされまくってるう。

ごめんなさいごめんなさい。

だらしのない先生で皆ごめんなさいいっくす！！

ダメダメな私にはもうどうにもできまじえんつ。

つか、もう知るか。異常事態過ぎるのが悪いの！

私シラナイ。私ワルクナイ。）

「……えっ……！」

ついに栓が抜ける。  
ぶるりと噴射で跳ねた乳首は教師の方へ向く。  
そして、母乳が弾けた。





「シム~~~~~ム」

シム  
ム

今まで一番強烈で凶悪な快感。  
喘ぎ声すらままならない。

大きさと比例する感度。  
もちろん噴乳の快感も絶賛増加中。  
その状態での溜め込み大量噴射。  
その快感度は想像を絶する。

(…っ！ マ、マ、マジ死ぬうっつっ！  
は、はや、早く魅了でえへええええええ！  
ご、ごのサイズまひや無理ひいっ！)





「けほけほっ。  
ちよっ……なあにい。  
……あれ。私何してたっけ。  
えっと確か瑞樹と……。」

「あひんっ!!」  
「ぢよっ……体があつ?」



(熱い! 疼く疼くう!  
な、何なの、これえ!  
あつ……ダ、ダメ!)  
疼く疼く疼くう!  
我慢できなあ……!



「あんっ！んんっ！  
や、やんっ。  
これ全然治まらなあっ！  
じ、自分の指だけじゃ全然  
足りないってえ。  
ああああああっ。  
だ、誰か助けてええっ！」

『おいおい、これやべえよ！  
理絵ちゃん先生、狂った？』

『うおお。やっぱ理絵ちゃんデカイ！』

『いきなり全裸で教室入ってきて生徒逆レイプとか  
この教師、ヤバすぎるんですけど。  
さっきから外ざわついていたのって、これが原因？』

『あれ？なんか近くで水の音がすんだけど何で？  
それに物凄く甘い香りが…んんっ！』

(あの子の母乳をモロに浴びてから体が変!  
発情し過ぎて止まらないいっすー!!)

は、早くイがないとこれダメなのおっ!  
教師人生終わらせたいのにい!  
自分だけじゃイけないから生徒襲ったのにい!  
もう馬チンじゃないと全然足りないのお!!)

(そ、そうだ。質がダメなら数で勝負!  
もつといっぱいのチンポでえ!)

「だ、誰か犯ひてえ!  
もうどうしようもない先生に  
熱い鉄槌喰らわせてドドメを  
さしてえくだひゃいっ!」



「…理絵ちゃん先生！  
マジでやってもいいんすか？」

『うわっ。勇者だ。  
あいつある意味勇者だ！』

「はいっ、もちろんです♪  
どうしようもない先生ですけどお  
嘘はつきませんよおっ。」

何人でもOKだからあ。  
とにかく早くしてくれないと先生、発情し過ぎで  
死にます！人助けだと思ってぶち込んでえ！」





『うおおおおおっ！  
マジでいったあ——っ！』

「どうしようもない先生のためにありがとう。  
どうしようもない先生のためにもっと頑張ってえ！  
あああああっ！ もっともっとおですよお！」

まだまだ足りない女教師の腰振りには激しさを増していく。



(よ、ようやく噴乳がおさまっへえ……!!  
これでえー旦きゆうげいいがあ……)

だ、大絶頂ひひゆぎへえマ、マジ死ぬう……!!)





溜め込み爆噴乳で近づけなかった魅了男たちが  
乳首に一斉に駆け込み、突く。

同時挿入だったので言いつけには背いていない。  
始まるのは押し退け合い。  
相手の排除を試みつつも乳首穴にかじりつく。

結果生まれる激しい二本挿しのニプルファック。  
攻防で次から次へと射精に達して怒涛の勢いで  
精液が注がれていく。

「や、やめえほおおおおおおおっ！

まひやイグのおおほおおおっ！

イグイグイグイグイぎゆううっ！

あひいほおはああああへえええっ！」

動けず言葉も発せない瑞樹の連続絶頂は  
魅了男たちが果て切るまでは止まらない。



「あああああつっ……!!  
疼きがあ治まんなあつ……あああああつ!!  
そこの君いチンポ使って「れえ止めてえ……!!」

「……っ……あああつ!!  
そ、そんなあ私もお……!!  
あああああつ……!!「れダメエ……!!」





「ああああああんっ♪ ホントに来たあああ♪  
やっぱりこれえチンポじゃないと治まんない奴っ！  
ああああんっ！もつと疼きを止めてえ…！」

(「このまま何回か派手にイかないと鎮まんないっ！  
猥褻がどうのこうのはレイプされたって言えば  
私はどうにかなるでしょ♪  
とにかくタイプな男のチンポで早くイかないとお！」)

「ひゃああああああああんっ！」

ああああっ！そこそこそこ「そ」おろろ！  
あああっ！イクイクイクイクイクッ！」

ビクッ♡  
ビクッ♡

ほっ♡

ほっ♡

「あああああっ！  
自分だけじゃこれ治まらないっ！  
ど、どっにかしてえ……！」



「ちよつとお。まだ3回目なのにもうへちままできいてるんだけどおろろ。もっと頑張つてよね。じゃないとそのへちまをアツプするわよ。」

…って、嘘。もう白目むいてるし…！」

「これじゃ疼きがまたあ…！」

…次はそつちのチラ見してる奴！

見学代は下半身で払ってもらおうわよ！」



「ああああんっ！」

「こ、これで3人目え〜〜♪」

「あはあ。だんだん楽しくなってきたあ。」

「体は疼きっぱなしなのお、どんどん来てえ！」

「こ、校内エッチ気持ちいいよお！」

「あああああああつ！」

「またあイックウ〜〜ツ！」





突如迫り来る白い高波と肌色の壁。  
狂乱から一時的に醒めるには充分  
な異常。

『…お、おい！  
あれは何かやばくないか！』





魅了男を全て吸い尽した瑞樹のおっぱいが乳首の栓が抜けると同時に爆発的に膨れ上がっていく。

それは廊下を完全に遮るほどの質量にまで達する。

A large, muscular, pink-skinned character with a small girl on their back. The character has a very large, rounded body and is shown from the waist up. The girl is small, with long brown hair and blue eyes, and is sitting on the character's back. The character's skin is a vibrant pink color, and there are some small white spots on it. The background is a simple indoor setting with a window.

責め役がいなくなりようやく一息  
できるかと思いきや。  
この凶悪サイズのおっぱいは色んな  
意味で桁が外れていた。

(か、感度がヤバくなり過ぎてえ……!!  
しかもアホみたいにデカいからめっちゃ擦れるう!!  
う、嘘お……!! イ、イっちゃうっ!!  
校舎に超絶おっぱいイカされちゃうっ……!!)

そこにあるだけで絶頂してしまうおっぱい。  
その快感に抗う術はない。

「こ」にきてようやく校内放送が流れてくる。  
生徒は直ちにグラウンドに避難、という内容だ。

グ  
グ

グ

グ

♡

『んんっ！ り、理絵ちゃん先生のおっぱい何でか  
デカくなってると。入口に肉壁できてるし。  
あ、明らかにヤバイんだけどお……！  
か、体が疼いて避難なんかできない……！』

過剰発情させられ性欲に負けた女性が  
乱交の末に変態する。

新たに狂乱の根源を増やし淫乱の肥大  
は止まらない……。



